

保育おおさか

No. 481

平成 27 年 9 月 1 日

発行人 永野 治男 編集人 齊藤 和正

大阪府中央区中寺 1 丁目 1-54

TEL.06-6762-9001 FAX.06-6768-2426

http://www.ans.co.jp/u/osakahtoiku/



吉田正幸氏

話題提供

吉田氏は、「現在は、経済状況が上向きで学生の就職率も高い。そのため民間企業も人材確保として保育士の卵にも手を伸ばしている。人生設計、キャリアに重きを置く求職者の満足度が高くなる職場環境を整えること、就業する側の立場を考えることも必要」と説明。

また、「女性は社会参加への意欲が高く、積極的に就労しており、非正規雇用の割合が高く、多様な就業状況が生まれる。そのため、さまざまな保育の需要が高まるが、保育を提

人材難時代をどう乗り越えるか

〜これからの人材確保・定着・育成〜

8月7日、第4回「保育士養成校と保育園・認定こども園との研究懇談会」がホテル日航大阪で開催され保育士養成校から60人、保育部会会員から140人が参加。吉田正幸氏（有限会社遊育・代表取締役、株式会社保育システム研究所・代表取締役）からの話題提供とグループディスカッションが行われました。（関連記事2面）

供するための人材のマッチングが非常に困難になることが予想される」と話されました。

職員処遇の根拠を作る必要性

保育士として専門性にふさわしい処遇のスタートラインが確保されておらず、民間企業平均賃金と比べてバランスが取れていない状態。

「人材確保だけでなく、専門職にふさわしい処遇は何か、改めて職員処遇の根拠を作る必要があり、その材料を養成校と協働して集めることが重要」と強調しました。

キャリアラダー(はしご)の見える化が重要

雇用する側として、キャリアを高めるための経験を積みせる道筋を作る必要があります。そのために、段階ごとに研修に参加させ、得た知識

を現場で活用し、職員が具体的にステップアップできる「キャリアラダー(はしご)」の見える化が重要。「困難ではあるが、一律の評価ではなく、頑張っている職員には、処遇・給料とは限らないが、何かの形で対応がキャリア形成上、必要になる」と話されました。

保育の質を保てる職員体制の構築

保護者の多様な就労形態に対応するために、常勤職員だけで保育を行うのは困難です。そのため非常勤職員との勤務の組み合わせを考えなければならず、「最近ではクラス担任になることを望まず、定時になれば帰宅したい」という意識の人もある。現実的に考えると、そういう人材でも働ける環境を作っていく必要性がある。担任・専任・フリーを組み合わせることで保育の質を保てる体制構築の検討が必要」と示唆しました。

最後に、養成校と施設が協働して5年、10年、あるいは20年先を見通した保育人材の供給・確保・継続保障について理念をもって構築をしていただきたいと結ばれました。



ドラえもん「のび太の結婚前夜」という話を存じでしょうか？ のび太との結婚を控えたしずかちゃん

が「これまでパパやママに甘えてばかりで何もしてあげられなかった」と後悔の念を口にします。そこでお父さんは「君が生まれてきてくれた。それだけで十分幸せだ」と答えます。

この言葉こそ、存在の肯定です。「ただそばにいてくれるだけでいい」と認められて、揺るぎない価値感情をもつのに必要なことです。

これまで私は子どもたちに、ほめること、肯定することは大切だと思い「上手にできたね」「お利口になったね」と、その場での自信につながる声かけばかりで「君と一緒にいるだけでうれしいよ」という肝心な部分を伝えていなかったと思います。

日本の子どもの自尊感情は外国の子どもと比べて極めて低いと聞きます。日本人は自分の気持ちを伝えることが苦手といわれます。われわれ大人が素直な気持ちも子どもに伝えていくことの大切さに改めて気づきました。

(編集委員 R・Y)

話題提供のあと、22のグループに分かれてグループディスカッションが行われ、「保育士養成校と保育園・認定こども園とが連携・協働して取り組めること」について議論を深めました。グループで出た主な意見を紹介します。

「保育園・認定こども園の違いについて」

- ▼保育園・認定こども園
 - ・子どもの保育に対して何も変わらない。もともと、



養成校と連携してより良い保育・教育を議論

- ・中学、高校での職業体験が楽しかったので、入学する生徒もいる。しかし、命を預かる仕事だと理解してもらうことから始めるのが難しい。
- ・就職先を選ぶポイントとは施設の雰囲気や先生たちのやりとりをよく観察している。

養護と教育を行っているので制度が変わったのみ。

▼保育士養成校

- ・実習依頼をした際は保育所だったが、実習を行う時には、認定こども園に移行しており対応に困った。

「学生の就職活動について」

▼保育士養成校

- ・社会福祉施設の就職フェアなどに行くように伝えしており、就職先を決める際の学生の選択肢の一つになっている。

家から近く、自転車に通える範囲を探している。

- ・幼稚園より、保育所へ就職を希望する学生が多い。長く勤めたい思いがあり、福利厚生や人間関係、職員の定着率や、勤続年数を気にしている。

「実習について」

▼保育園・認定こども園

- ・実習記録の内容が20年前とあまり変化がない。現状と合っているのか。また、実習記録を書ききではなく、ワードなどへのデータ化も考えていたいただきたい。

「その他」

▼保育園・認定こども園

- ・幼稚園免許取得を目指す職員、免許更新をする職員について園としても積極的に協力していきたい。養成校とのネットワークを使い、解決したい。

▼保育士養成校

- ・奨学金も返せず、アルバイトで学校に來ない学生も出てきている。何か違う制度にならないか。介護のようなことでは、後退になってしまうので何

大阪府への予算要望

8月31日、大阪府社協、施設正副部会長会議、市町村社協連合会、民児協連合会の4者連名で「平成28年度大阪府当初予算に対する要望書（全13項目）」を提出。保育部会からの要望は以下の内容です。

認定こども園の認可・認定権限等の権限移譲において、市町村における円滑な運用に向けて、十分な連携等を図られたい。

以下は、要望の詳細内容（一部要約）。

平成27年4月の子ども・子育て支援新制度施行に伴い、政令指定都市・中核市以外に立地する保育所から幼保連携型認定こども園等に移行した施設については、今年度より大阪府による施設指導を受けることとなる。

また現在、大阪府では希望する市町村に対し、平成28年度4月から幼保連携型認定こども園の認可権限及び幼保連携型認定こども園以外の認定権限を、大阪版権限移譲により事務移譲することを検討している。

権限移譲をする場合においては、府内の認定こども園に対する指導に格差が生じないように、また各施設における事務手続きが煩雑にならないよう、市町村における円滑な運用に向けて、市町村との十分な連携等を図られたい。

「第59回全国保育研究大会」

分科会発表者選出

- ・かいい方法を考えたい。
- ・男性の学生にとっては、将来性を考えた時に役職などステップアップできる職場である方が魅力がある。
- ・年間、10人ほど、卒業者が学校に來て求人票を見る時もある。「既卒者可」の一文があると効果的だと思う。
- ・10月くらいまでは、内定をもらっているのに、遅くとも9月には、求人を出した方が効果的。

7月に開催された近畿ブロック保育研究集会・第3分科会で「危機管理を通してみんなで考え、資質の向上を図る」子どもの安全のために」をテーマに大東市の聖心保育園（発表者：園長・永田英子氏、主任保育士・若仁麻美氏）が発表されました。

選考の結果、11月11日、



子どもの「してみたい」思い大切に

“親子で集うひだまり”で
地域に貢献目指す

豊中市

保育所

あけぼのひだまり保育園

また地域に開かれた“親子で集うひだまり”として、園庭開放やひだまり広場、赤ちゃんの駅などの地域貢

です。園で育てたトマトやきゅうりの味は格別のようなです。

初めての子育てを子どもたちが安心して過ごせるよう、乳児担当制を採り入

あけぼのひだまり保育園は、豊中第十三中学校の敷地内に、今年4月に開園した定員30人の乳児施設（0・1・2歳児）です。1階の教室2部屋分を木の温もりが感じられ、乳児が安心して生活できる保育室に改装。小さな園庭は滑り台にウッドデッキ、夏みかんやマスカットの木々に囲まれ、子どもたちは裸足で思う存分遊んでいます。開放的でアットホームな雰囲気、のびのびと家族のよう

れ、1対1の関わりを大切にしています。一人ひとりの日々の育ちを保護者と心をつなぐ支えあい、見守りながら子どもの「してみたい」思いが十分に発揮できる保育園を目指しています。食事も自園調理で離乳食からアレルギー配慮食まで個々に合わせて対応。食材にもこだわり、旬の野菜を使いバランスの良い薄味で食べやすいオリジナルメニューを提供。また、子どもたちに大人気のメニューを簡単レシピとして保護者に紹介することで、園と家庭とが食育に取り組むきっかけとなつていくそうです。

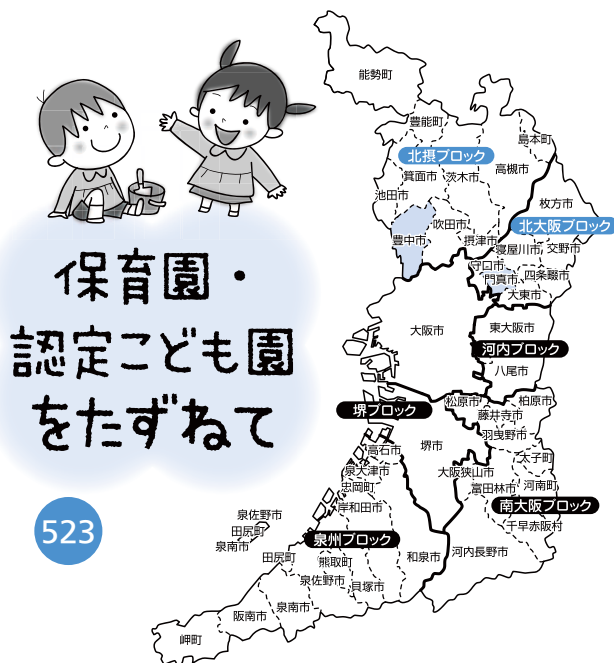


園庭と滑り台



木のぬくもりある保育室

（編集委員Y・T）



社 会福祉法人向日葵福祉会は近くにある第二京阪道路が通っていますが、それを感じさせない静かな環境にあります。分園を含んで85人の定員ですが、園庭は先生方も「小さな園ですが、園庭は広いですよ！」と言われるほどの大きさ。地域の方の協力で柿やイチジクの木を植えてもらったり、畑を作ってもらったりと、たくさん作物が園庭に植えられています。今は夏野菜の収穫をみんなで楽しんでいます。岡本恒男園長が大変こ

わっておられるのが、農家と直接契約をして取り寄せている無農薬・無肥料のお米と玄米。子どもたちの「咀嚼力を育てる」「健康な体作り」をねらいに採り入れています。また「インクルーシブ保育」にも力を入れており、障がいのある子や課題を抱える家庭の子など、どんな家庭でも安全・安心して預けることができる保育園を目指しています。いつでも保育を必要とする家庭の受け入れができるよう、普段から職員を多めに配置しています。子育て経験の未熟な家庭が増えていることから、親も含めて育てることにも熱心です。「親学」として、行事前などに園長先生のお話と職員による寸劇で子育ての方法を分かりやす

く伝えていきます。職員の研修を「今日より明日。明日より明後日。保育力をつける」をモットーに年間30回以上実施。職員からも「第一に子どものためを考えている園長です」といわれる岡本園長の熱意を感じる保育園でした。

（編集委員T・T）



自然と体を動かせる園庭

子どもたちを第一に考える

「インクルーシブ保育」や「親学」など熱心に取り組む

門真市

保育所

みつしま

三ツ島保育園

子どもの心の声を逃さない

一地域や園全体で
子どもを育てる一

東大阪市

保育所

いなだ保育園

発達をふまえ、養護と教育が一体となった保育を行う」という保育方針は、変わらず守ってきました。最近、子どもの心の安定が揺らいでいるように思いますが、園では子どもの心の声を大人が聴き逃さないように、また子どもの行動には、意味があることを念頭に寄り添い、向き合うようにしています。子どもがまわりから認められることで自信をつけていけるようにに保育士間の連携を図り、園全体で保育することを大切にしているそうです。

2階建ての園舎では、乳児は2階園庭でのびのびと遊びます。上からの眺めは大のお気に入り。幼児は、住宅の方々の好意により隣の公園を優先的に使用させてもらい、十分に走り、集団遊びや体育遊びを楽し



みんなで作った夏野菜。
収穫の喜びをクッキング！

(編集委員T・Y)

み、体力作りに取り組んでいます。高齢者施設や住宅の方々との交流会の開催、育児相談や園庭開放など、これからも地域に愛され、地域に根差した運営を目指されます。

いなだ保育園は、J R 学研都市線徳庵駅の南東、稲田住宅の中にあります。昭和29年大阪府営住宅の建設と同時にモデル保育所として大阪府が建設、布施市（現東大阪市）公共社会福祉事業協会が稲田保育所としてスタート。昭和51年には新園舎が竣工し、定員150人になりました。平成26年から社会福祉法人公共社会福祉事業協会「いなだ保育園」に名称が変わりました。



「おーい！」とのぞく可愛い顔。
元気な声が響きます



保育園・
認定こども園
をたずねて

524



柳 風台保育園は河内長野市の住宅街にあります。昭和54年の設立時は、60人からのスタートでしたが、現在120人の子どもたちが登園しています。設立当初から、造形教育への取り組みが盛んで、現在でもたくさんの作品が展示会などを通して多くの人たちに披露されています。専門の講師を招き、造形教育における指導方法などを保育者に伝え、講師による子どもたちへの直接的指導も行っています。

実際に指導方法を学んだ横田朋子園長は海外での施設見学の実験などから、子どもたちの直接的指導も行っています。造形教育への取り組みが盛んで、現在でもたくさんの作品が展示会などを通して多くの人たちに披露されています。専門の講師を招き、造形教育における指導方法などを保育者に伝え、講師による子どもたちへの直接的指導も行っています。



テーマは「はらぺこあおむし」

(編集委員Y・K)

も、子どもたちの表現力の豊かさや、可能性を伸ばしている環境づくりが、乳幼児期から必要であると考えておられます。0歳児から発達支援のできる保育園。その素晴らしい、大切な役割を担っていることを教えていただきました。

は、まず子どもたちの造形に対する興味を引き出すためにペープサートなどを活用し、導入の方法に工夫を凝らしているそうです。また、テーマを設定して子どもたちがイメージしやすい、のびのびと表現でききるきっかけづくりを大切にされています。絵本やクリスマス、運動会など季節に合わせたさまざまな題材をテーマに準備されるそうです。



1歳でも立派なアーティスト！

目指せ! 未来のアーティスト

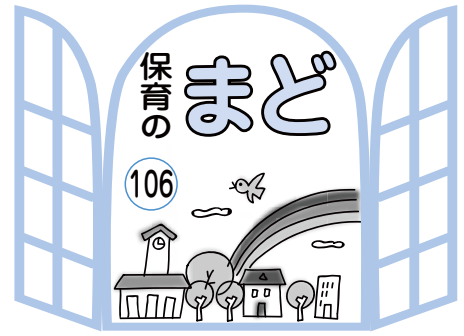
0歳児から可能性をのぼす

河内長野市

保育所

りゅうふうだい

柳風台保育園



今月号は、相愛大学准教授・直島正樹氏にご執筆いただきます。

「養成校と保育現場が一緒に保育者を育てる」視点

今年4月から子ども・子育て支援新制度が始まり、保育者の資質・専門性のあり方が、より一層問われるようになりました。

保育所などにおける日常の保育はもちろん、保護者への支援、地域の子ども・子育て家庭への支援など、保育者への期待はますます大きく、幅広い役割を担うことが求められています。

シリーズ●より良い保育士養成のために

－ 保育者のためのキャリア形成 － 学生から保育者への育ち － 保育士養成校ができること

相愛大学 直島 正樹

保育士養成校に入学してくる学生の多くは、「子どもが好きだから」というところから始まります。その学生たちが、単に子どもが好きというだけではなく、このような役割を担える専門職へと育つためには、養成校での学びを基本に、保育者になってからの経験、研修、自己研鑽なども重要になります。それらを通して、保育に必要な知識・技術の習得、専門職としての価値観の形成を続けていくものであると考えます。

このような「保育者のためのキャリア形成」という考え方を念頭に置き、養成校と保育現場がお互いに何ができるのかを検討していくことが必要ではないでしょうか。養成校と保育現場のどちらか一方の責任ではなく、両者が一体となって保育者を育成するといった視点が求められるわけです。

今回は、この中の「養成校ができること」について、取り組み例を挙げながら述べてみたいと思います。

学生の主体性を育む教育実践を目指して

学生が専門性の高い保育者になるためには、まずは養成課程の中で一人ひとりが何を学び、課題となっているかを明確にすることが重要です。教員から一方的に教えられるのではなく、あくまで学生自身が興味・関心を持ち、主体的に学ぶことが求められます。そのため、養成校においては、カリキュラム内外での学生個々の学び・課題に向き合い、主体性を育む教育実践が必要になると考えます。

例えば本学では、入学から卒業まで行われる学外実習の指導を中心としながら、学生が主体的に学ぶ姿勢を身につけるための授業「ベシックスセミナー」（1年次）があります。そして、保育に携わる上での企画力・運営力・実践力を身につけることを目的に、「保育・教育マネジメント」（4年次）などの授業を行っています。

このような授業による取り組みのほか、1年次から保育現場などでのボランティア活動を奨励しています。事前指導を実施し、終了後は活動記録の作成・ポートフォリオ化を行います。また、より実践的な力を養うため、地域連携活動にも積極的に取り組んでいます。

昨年度は、地域の親子を対象としたイベント「相愛こどもわくわく遊び広場」を大学内で開催しました。また、親子向けの参加型イベント「貝塚市コスモシアターファミリーフェスティバル」において、音楽を活用した親子で楽しめる



「貝塚市コスモシアターファミリーフェスティバル」における実演

プログラムの学生が企画し、実演しました。そのほか、「第3回住之江区いき愛発信シンポジウム」では、地域の保護者の方々とともに学生もシンポジストとして登壇し、ボランティアについて発表・討議を行いました。

継続した検討を

このような実践のほかにも、本学ではさまざまな取り組みを行っています。日々、試行錯誤をくり返しているのが現状です。

また、「主体性を育む」以前に、「超個別指導」ともいえる、生活指導などを含めた非常にきめ細やかな個別支援が必要なケースもあります（特に学外実習に関連したもの）。これらは、種類や程度の違いはあるものの、現在の養成校全体で共通して見られる事項といえるのではないのでしょうか。

そのような中で、より良い保育者の育成に向けて、養成校として何ができるのか。卒業後現任者研修のあり方なども含め、今後も養成校と保育現場がともに、真剣に検討していくことが求められます。

ブロックだより

OSAKA

北大阪

笑顔でおいしい
食事のひとときを

7月29日、ホテルニュー
オータニ大阪で、北大阪ブ
ロックの夏期職員研修会が
開催されました。内容は「社
会人のテーブルマナー」。1
63人の参加でした。



初根真人氏

ホテルの講師、初根真人
氏から「今日は結婚式に招
かれたという想定で、洗練
された大人のマナーを学び

ましょう」という言葉から
始まりました。

テーブルマナーとは食事
をおいしくいただくために
あるものです。楽しく食事
をするための基本的な気づ

かいで、他人に不快な思い
をさせない、思いやる気も
ちでもあります。忘れては
いけない大切なことです。

食事をおいしく笑顔でい
ただくには、人と人との信
頼関係も大切です。相手の
気もちに気づくには「この

人はこうしてほしいのかも
しれない」と常に考えてお
くこと。身近な具体例を交
えてのお話は、とても解り
やすく、気づかいの大事さ
がよく理解できました。

ナフキンの使い方、ナイ
フとフォークの使い方はは
じめ、ワインのお話、振舞
いについてなど正しいマ
ナーも再確認できました。

おいしい料理をいただき
ながらのひととき。たいへ
ん有意義な研修となりまし

た。

また、先生方との一期一
会のコミュニケーションも
生まれる、良い機会でもあ
りました。

(編集委員H・S)

南大阪

子どもと楽しく音楽
に親しむあそび方

石川保育園で南大阪ブ
ロック民間保育園連盟音楽
研修会を開催。「子どもと楽
しむ音楽あそび」をテーマ
に山地寛和氏(NPO法人
生涯音楽アカデミー理事
長)が講演されました。

あそびでは2人ペアで音
楽に合わせての振付や、リ
ズムを使ってコミュニケーション
をとるなどのあそび



楽器の扱い方を実践で学ぶ

をしました。

鍵盤ハーモニカの導入で
は、まずストローでスポン
ジボールを転がすレースで
息を一定の方向に吐く方
法、扱い方や約束を伝え
るなど導入の仕方を学びま
した。楽器を出してから少
し自由に吹く時間を取るこ
とや、黒鍵盤が簡単に思え
るような基礎練習やポジ
ショニングの仕方を教わり
ました。

合奏では、楽譜の音符を
各楽器に振り分ける方法も
教えていただきました。

個人的に印象に残ったの
は、音楽があればリズムに
合わせてジャンケンタイ
ミングが揃えることや、子
どもに楽器を渡すとやはり
鳴らしたくなるので、少し
の間自由に鳴らす時間を取
ると集中しやすくなるこ
と、黒鍵盤は私自身も難し
いという印象があるので、
そう教えてもらうと、難し
いイメージがなくなるとい
うことです。

とても学ぶことの多い研
修でしたが、今回学んだこ
とを吸収し、自分の保育に
生かしていきたいです。

(高屋保育園Y・H)

さんぽ



新制度が始まって約半年、
まだまだ市町村の対応の遅
れや理解不足が目立ち、処
遇改善を含む加算部分の認
定も遅れています。そろそ
ろ来年度へ向けて各園でも
検討されるかと思いきや
が、公定価格と市の
補助金を含めた収入
の全容がいまひとつ
掴めていない法人も
多いようです。保育
所運営費と同じく公定価格
もその積算が明らかにされ
ていませんが、各市町村は
補助金のあり方をどのよう
に考えたのでしょうか。

保育費用が含まれると整理
されたことから、市独自に
出してきた補助金が基本分
単価へ踏襲されること。
また、分園夜間保育推進
事業分や通常保育の質の向
上を目的とした補助金の一

保育の質の向上に向けて 前向きな検討を

堺
ブロック

部が根拠を失うことから補
助体系そのものを大きく見
直すことになりました。
新しくされた主な内容の
ひとつは、保育の質の向上
に係る部分(特に保育士の
配置改善)を先取りする補

に対応する事務員の加配
研修代替職員の配置など
です。
結果、今まで各園が持ち
出していた部分にかなりの
人的補助がつく形となりま
した。最低基準を満たした

に必要です。
採用や養成に尽力する必
要性を痛切に感じ、今後ま
すます人手不足となる可能
性を危惧しながら、職員配
置を検討する必要があるそ
うです。

(平和の園N・S)